カタリナひろば

Vol. 20 No. 1
2007. 10

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部

学部長が語る

「人間健康福祉学部」に託した「新しい福祉への想い」

社会福祉学部長　下　田　　正

過去20年の歴史を刻んできた社会福祉学部は、来春「人間健康福祉学部」という名称の福祉学部として、新たな歩みを踏み出すことになりました。今までの社会福祉学部は、「様々な困難を抱えておられる方々の視点にたって、人間らしい生活とは何か、それを実現するために、どのような援助が、どのような条件が必要とされるのか」についての教育研究に取り組んでまいりました。そういう伝統を引き継ぐ学部でありながら、何故その名称を「人間健康福祉学部」に変えたのでしょうか。ここでは、私たちがこの新しい名称の福祉学部に託した「新しい福祉への想い」についてお伝えしたいと思います。

先ず、今回の新学部では、様々な福祉理念の中でも、全ての人の、人権の尊重、自己実現、身体的、精神的、社会的に良好な状態（健康）を意味する「ウェルビーイング」という理念を具現化する福祉学部にしたい、ということでした。

というのも、福祉というと、一般に、今から半世紀以上も前に制定された「社会福祉事業法」の第3条に示されているようなイメージとして、つまり、「援護・育成または更生の措置を必要とする者を、正常な社会人として生活できるように援助すること」（一部抜粋）として捉えられていたように思います。どちらかと言うと、消極的で暗くてネガティブなイメージです。しかし、時代も変わり、福祉の世界も確実に変わりました。例えば、福祉サービスも保育や介護などを中心にごく一般的な人が利用するものになってきました。福祉の価値観も人間の尊厳、個人の尊重、自己実現、そして生活の質といったものを重視するようになっています。また、福祉サービスの方法や内容も、保護から自立支援へ、消極的な事後救済から積極的な福祉増進や生き甲斐づくりへ、と変わってきています。こうしたことから、本学の福祉学部も、この現代という時代に相応しい「ウェルビーイング」という理念を掲げ、その具現化に取り組むことにしました。

もう一つは、学生の皆さんの多様な関心やニーズに応える福祉学部にしたい、という思いでした。

ここ数年、本学に学ぶ学生の皆さんとの交流の中で、若い方々が福祉は勿論のことホスピタリティを含む生活関連のサービス産業への、あるいは健康やスポーツ関連産業への関心やニーズを持たれており、人々の幸せや健康や心豊かな生活に少しでも役に立つ仕事に就きたいと思われていることを実感しました。お金や地位も大切ですが、そうしたものを超える何かを求められているのではないかとも感じました。したがって、私たちは、こうした学生の皆さんの多様な関心やニーズや希望に少しでも応えるような学科や専攻をもつ福祉学部をつくることにしました。

三つ目の思いは、時代や社会が求める福祉学部にしたい、ということでした。

昨年4月施行の改正介護保険法は介護予防を重視したものですし、来年予定されている医療保険関連法の改正も、疾病予防や健康増進を目指すものであります。そしてまた、多くの人々は、生活習慣病やメタボリック（内臓脂肪）症候群の予防や改善、あるいはより積極的な健康増進や生き甲斐を求めて、食生活の改善や運動不足の解消に努めておられます。これは日本だけの問題でもないようです。つい先日の新聞でも、アメリカのカリフォルニア州サンタナ市では、ハンバーガーなどの偏った食生活で肥満になっておられる方々に対して、ＮＰＯの方たちが無料でエアロビクス教室を開かれているということが報道されていました。もはや疾病予防と健康増進は世界的なテーマです。こうした状況を踏まえ、本学は、健康やスポーツへの関心を高めつつある時代や社会にあった福祉学部をつくることにしました。

結局、以上のような思いを形にしたのが、2008年4月にスタートする「人間健康福祉学部」という名称の福祉学部なのです。現代の福祉理念である「ウェルビーイング」の実現を目指すため、従来よりも、より積極的で、より総合的な教育研究を志向したいという想いを込めて「人間健康福祉学部」という名称にしたわけです。そして、この新学部は従来からの社会福祉学科と、新しい健康福祉マネジメント学科の2学科で構成しています。社会福祉学科は、現行の学部と同じように、社会福祉専攻では臨床的な能力に優れたソーシャルワーカーを、介護福祉専攻では高度なケアワーカーの養成を目指しています。新しい健康福祉マネジメント学科では、現行の福祉経営学科の伝統を発展的に継承したもので、福祉や健康を中心とするヒューマンサービスの事業分野でマネジメント業務を担う人材の養成が目標です。この学科にも2つの専攻を設けており、福祉マネジメント専攻では、福祉やホスピタリティ産業分野で活躍できる人材の養成を、健康スポーツマネジメント専攻では、健康やスポーツ産業分野で活躍できる人材の養成を目指しています。

果たして、学生の関心やニーズや希望に応えられるのか、時代や社会の要請に応えられるのか、「人間健康福祉学部」は、あと半年もすればその真価が問われることになります。私たちは、この新しい名称の福祉学部に託した「新しい福祉への想い」の実現に向け、教育研究に取り組んでまいります。

Campus News

人間健康福祉学部開設記念フォーラム
「あなたの笑顔がみたいから」

聖カタリナ大学では、来春の人間健康福祉学部の開設を記念し、「あなたの笑顔がみたいから」をテーマとしたフォーラムを開催いたします。知的発達障害者にスポーツの場を提供しようと努められてきた「スペシャルオリンピックス日本・愛媛」の皆さんのご協力をいただきながら、“人間にとって大切なものとは、ボランティア活動とは、支え合い助け合う社会とは”などについて考えて行きます。お気軽にご来場ください。お問い合わせは聖カタリナ大学総務課（089-993-0702）へ。

［フォーラム要項］

日　時／ 平成19年10月26日（金）17:00〜19:30
会　場／ 聖カタリナ大学　聖カタリナホール
プログラム／
17:00〜　開会の辞
17:05〜　トゥワイライト講演
「可能性への挑戦」〜ＳＯから学んだこと〜
18:50〜　ボランティア、健康増進事業活動紹介
・スペシャルオリンピックス日本・愛媛
・スペシャルオリンピックスウガンダ
・知的発達障害者への乗馬療法の試み
19:10〜　健康リフレッシュ体操
19:30　閉会の辞

●トゥワイライト講演
「可能性への挑戦」
〜ＳＯから学んだこと〜
●講師　細川 佳代子さん

［プロフィール］
認定ＮＰＯ法人スペシャルオリンピックス日本　名誉会長
認定ＮＰＯ法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会理事長
日本フロアホッケー連盟会長
スペシャルオリンピックス冬季世界大会（2005年・長野）会長
「able」の会代表

大学祭 2007「感謝　〜ありがとうを込めて〜」

聖カタリナ大学2007年度大学祭を、10月27日（土）・28日（日）を一般公開日として開催します。様々な催し物を準備して皆様をお待ちしています。ぜひご来場ください。

［主な催し物］
●10月27日（土）
・ステージショウ
・『カナヘイ』イラスト展示
・お化け屋敷
●10月28日（日）
・ライブ×ＬＩＶＥ
ゲスト：パペットマペット＆星野卓也
・『カナヘイ』チャリティーオークション
・お化け屋敷

◆パイプオルガン演奏会◆

大学祭の開催にあわせ、恒例のパイプオルガン演奏会を開催します。

日　時／10月28日（日）
15:00開演（14:30開場）
会　場／聖カタリナホール
演　奏／吉田　仁美
エリザベト音楽大学エクステーション講師
演奏曲目（予定）／
・トッカータとフーガ　ニ短調
・Ｇ線上のアリア
・ウエストミンスターの鐘　　他
入場料／無料

保育学科リカレントセミナー

聖カタリナ大学短期大学部保育学科では、幼稚園、保育所、施設などに勤務されている方や希望者を対象に、第８回リカレントセミナーを開催いたします。ご参加をお待ちしております。

［開催要項］
日　時／平成19年11月23日（金・祝）10:00～15:00
会　場／聖カタリナ大学短期大学部
受講料／無料
講座内容（選択）／
・新しい教育基本法で学ぶ幼児教育（10:00～12:00／20名）
・保育における音楽療法（10:00～12:00／20名）
・ピアノを弾きましょう！（13:00～15:00／5～7名）
・ピアノなんでもレッスン（13:00～15:00／5名）
申込み締切／平成19年11月9日（金）
申込み・問合せ／聖カタリナ大学　総務課（089-993-0702）

Topics

はじめよう！高齢者のフットケア

［7月28日（土）］
聖カタリナ大学社会福祉学部では、介護の現場などで注目が集まっているフットケアについて、「はじめよう！高齢者のフットケア」と題して公開講座を開催しました。
福祉・介護の現場で活躍されておられる方々を中心に約100人の参加をいただき、本学准教授　秋山　昌江が、フットケアの基礎知識や有効性、実践方法などについて講義を行いました。

ボランティア活動功労者表彰 受賞

［9月12日（水）］
本学の学生ボランティアセンターが、松山市民会館で行われた「平成19年度　松山市福祉大会」において、松山市社会福祉協議会会長表彰（ボランティア活動功労者）を受けました。
この大会は「多年にわたり福祉活動に功労のあった方々を表彰し、謝意を表するとともに、関係者の相互理解と連携を深めること」を目的としたもので、午後の式典において、学生ボランティアセンターの常日頃の地道な活動と実績が認められ、表彰されました。松山市全体で２９名、２団体が表彰されたもので、大変名誉なことです。

韓国・又松大学学生　来学

［9月28日（金）～30日（日）］
本学の国際提携大学である韓国・又松（ウソン）大学の学生８名が本学を訪れました。
学生たちは又松大学で日本語を勉強しており、日本への留学を希望しています。留学の準備として事前に本学や松山の街を見学したいということで、今回の訪問となりました。
28日は大学の授業に参加したり、学内の施設見学や、本学の学生と交流の時間を持ちました。翌日からは松山や北条の街を散策し、30日の夕刻に松山空港から帰国の途につきました。

教員 ESSAY

マイブームは温泉！

社会福祉学部講師
恒吉 和徳

私はこの春、約42年間生まれ育った鹿児島の地を離れ松山に参上しました。「住めば都」とは良く言ったもので、最初の不安も少しずつ取れてきて、愛媛の言葉もさほど違和感なく聞けるようになりました。愛媛は鹿児島に非常に似た環境にあることが何よりも嬉しい限りです。海があり、山があり、温暖で、街は路面電車が走っています。そしてなんといっても温泉です。鹿児島は指宿温泉や霧島温泉など有名で、鹿児島市内でも源泉かけ流しなんてところもあります。愛媛といえば道後温泉があまりにも有名ですが、いたるところに結構な温泉があり、あちこちの温泉を巡るのも私の楽しみの一つになっています。

若かりし頃には、趣味といえば「スポーツを楽しむこと」と即座に答えていたのが、今は「温泉！」と答えます。これって年をとったということなんでしょうか。いやいや、温泉の魅力を発見できたということにしましょう。今は全国的にも若い世代の人たちも個人や団体で温泉を巡る人たちが増えてきているのですから。それでは少しばかり温泉についての蘊蓄を…。

日本には「温泉法」なる法律がありまして、この法律で「温泉」とは、「地中からゆう出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガス（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く。）で、別表に掲げる温度又は物質を有するものをいう。」とされています。別表に掲げてあるのは①地中から湧出する際の温度が25度以上、②1kg中に、ガス性のものを除く溶存物質を1000mg以上を含有、③1kg中に、遊離炭素、リチウムイオン、メタほう酸など温泉法で指定された18種類の物質1つ以上について、それぞれ設定された基準値以上を含有、であり、このいずれか1つ以上に該当するものであると定義づけられているのです。そして温泉には性質により、「単純温泉」「二酸化炭素泉」「硫黄泉」などだいたい9種類ぐらいのタイプがあるようです。それでは愛媛県が誇る「道後温泉」とは…。

道後温泉は兵庫県の「有馬温泉」、和歌山県の「白浜温泉」と並んで『日本三古湯』の一つと言われています。泉質は単純温泉ですので無色透明、無味無臭で日本では最もポピュラーな温泉です。含有物が少なく刺激が弱いので、高齢者でも安心して入浴できるほか、病後回復期や外傷後の療養など

によく、「名湯」といわれる温泉が多いようです。高血圧や動脈硬化、神経症を含めて万病に効くとされています。ちなみに関節痛や筋肉痛等に効果があるのは「塩化物泉」、水虫や湿疹などの慢性皮膚病には「酸性泉」、痛風や糖尿病、リウマチ、神経痛には「放射能泉（一般的にはラジウム泉）」とされています。

さて、以前ある鄙びた温泉に行って入浴していると、次々に地元の高齢者らしき人たちが4～5人入ってきました。会話は絶えません。そのうちお互いの背中の流しあいっこが始まりました。関係ない私にまで飛び火して、気がついた時には私も背中を洗ってもらってました。「どこから来たの？」「仕事は何をしてるの？」「どこの温泉が良かった？」など尋問が始まりました。完全にデイサービスセンターと化した感じです。どうみても後期高齢者に近い人たちでしたが、元気で肌艶もよく、なんといっても表情が生き生きしています。殆ど毎日にようにこの温泉に来ているそうです。元気の源が温泉らしいです。身体的にも精神的にも効果がある温泉で、いろんな人たちとの会話を楽しむ、なるほど、機械仕掛けのリハビリや、近代的な箱物の中でマンネリ化した計画にあてはめられたデイサービスも必要なのかもしれませんが、その人たちにとっては毎日の温泉が健康・生きがい作りになっているのかもしれません。しかし、鹿児島市では以前高齢者を対象とした無料の「健やか入浴券制度」が一部有料化（100円負担）になりました。高齢者にとっては何につけても負担、負担の連続です。高齢者の方々が生き生きと老後生活を送れるような、何か明るいニュースが欲しいものです。

何かとストレスを抱えやすい現代社会。身体的、精神的にリフレッシュできる方法を各人で生活に位置づけていくことは大切なことかもしれません。せっかくの自然の恵みを、ありがたく頂戴し、心も体もリフレッシュして人生を楽しみたいものです。老若男女問わず、週末、温泉にどっぷりつかって、のんびりと時間を過ごしてみてはいかがでしょうか。ちなみに、伊予国（いよのくに）という名称は湯国（ゆのくに）が転じたという説もあるらしいです。最後に、温泉には泉質によって禁じ手があります。発熱時や急性疾患、進行期、妊娠初期、後期などの場合は温泉治療には適さないそうですのでくれぐれもご注意を！

ゼミナール
インタビュー

鷹尾 雅裕 ゼミ

精神障害者の地域生活支援を考える

精神障害者の虐げられた長い歴史を振り返り、その上で精神障害者福祉の現状を見つめ、精神障害者が一般市民同様に町の中で生き生きと生活するために、どのような施策や支援が必要かについて考えています。

●ゼミの特徴を教えてください。

実にいろいろなタイプの学生がいます。特に女子学生は活発で、よくまとまっています。よく飲みに街へ繰り出しますが、騒ぎすぎて店の方から注意されたこともあります。3・4年生合同で野外バーベキューをしたり、実習の打ち上げパーティをするなどが楽しみです。

●ゼミの授業スタイルはどういったものでしょうか？

3年生は、与えられたテーマについてグループで調べて発表し、議論します。テーマは、精神障害者が抱える障害について、さまざまな症状や治療に関すること、精神障害者家族の負担など、多岐にわたります。

4年生は、ゼミ生個人が社会福祉に関して抱く関心や疑問について、自ら調べてプレゼンテーションし、それをもとに討論します。自分の考えをコンパクトにまとめて発表し、質問に対応する経験を重ねるのがねらいです。

●今後の活動としてやっていきたいことは？

わがゼミ生には、精神障害者の置かれた現状をそのまま知って欲しいし、また多くの精神障害者と交流体験を持って欲しいと思うのです。例えば、行政関係の仕事の実際、地域の作業所や精神病院への訪問、イベントにおけるボランティア活動などです。これらは、以前やっていたことなのですが、2年前からゼミの時間が1時限目に変更になり、そのほとんどができなくなりました。なんとか交流体験を持ってもらう方法を模索中です。

●ゼミ生にどんなことを学んでもらいたいですか？

精神障害者に対し、多くの人の心の中に存在する偏見や差別意識について、それを無理に取り除こうとせず、むしろその存在に気付くことの大切さを分かって欲しいと思います。そして、実際に精神障害者との交流を通じて彼らへの理解を深めることで、さまざまな人々の存在を知り、柔軟な考え方や多様なものの見方を身に付けて欲しいと思っています。

●どのような学生にゼミに入ってもらいたいですか？

何より、社会的な常識が備わった明るい人を歓迎します。

●ゼミ生へのメッセージをお願いします。

いろいろな学生がいるので、ハラハラ・ドキドキすることもありますが、本当にすがすがしく、わが子のように可愛く思います。今後益々、心身共に健やかに成長されることを心より願っています。

●鷹尾ゼミはこんなゼミです！

私達鷹尾ゼミは、男子６名、女子３名、ぬるいビールがお好みのおちゃめな鷹尾先生、計10名で活動しています。精神保健福祉をテーマにしたゼミ活動を行っており、決めたテーマについて、一人が調べてプレゼンテーションを行い、それに対して全員で自由討論などをしています。

授業を少し早めに切り上げて、全員でご飯を食べにいくこともしばしば･･･(^^; ちょっと遠出して、鷹尾ゼミの３回生とバーベキューをしちゃったり･･･、とにかくアウトドアと楽しいことが大好きなゼミです。男子の方が多いのに、なぜか女子の方が主導権を握っています。なんせ女は強い!!(笑) 男子のメンバーもとても個性的で、自分の興味ある分野は専門家より詳しい･･･かも。

そんなメンバーをまとめているのが、これまた個性的な鷹尾先生!!みんなが討論して、話がまとまらなくなったときは、現場経験の豊富な先生がその経験をふまえ「こんな考え方もあるよ。」と教えてくれます。そんな熱心な姿も見せてくれますが、お茶目な鷹尾先生は、愛するインコのリンちゃんの待ち受け画面を見せてくれながら、「『お父ちゃん』って呼んでくれるんよ！」とデレデレと話してくれます。私たちはそんな鷹尾先生が大好きです!!

（社会福祉学部４年　小倉　千幸さん、田野　陽子さん、西蔭　朋恵さん）

就職活動レポート

●卒業年次を迎えた学生たちが、現在就職活動に熱心に取り組んでいます。そこで、既に内定を得ている学生さんにインタビューし、就職活動の苦労話や、後輩たちへのメッセージを聞かせてもらいました。

荻山　夏樹（おぎやま　なつき）さん
福祉経営学科４年
松山商業高等学校卒業

◆内定をいただいた会社を教えてください。

「日本食研株式会社」です。

◆その会社に決めた理由を教えてください。

「日本食研株式会社」初めて会社名をみたときはちょっと堅いイメージだと思いました。しかし合同セミナーや就職活動サイトで日本食研の事を調べるうちに、まじめで将来性のある会社というイメージに変化しました。どんな職種でも、就職すれば大なり小なり不満はあるものだと思います。そんな不満が出てきても仕事を続けるには、会社の雰囲気や仕事の達成感が必要だと思います。日本食研には私の求める会社の雰囲気や自分の仕事の将来性があります。そして何より会社に夢（目標）があります。そこに共感して志望しました。

◆就職活動中の苦労や工夫したことを教えてください。

私の場合はやりたい職種が決まっていたし、エントリーシートなども3年生の終わりには書けるようになっていたので、就職活動自体はスムーズでした。苦労したことといえば、会社ごとにどのような人材を求めているのか分析することです。会社の求人要項などをホームページで見て、それに合わせてエントリーシートを作成しました。同じ職種でも微妙に求める人材が違っていたりするので、分析にはノートを作ったりしました（ネタ帳みたいな）。

あともう一つ苦労したのが面接です。これは、とにかく緊張しました。人によるかもしれないですが、練習していても用意したことの70%ぐらい面接官に伝わっていたらよい方だ

と思いました。何を聞かれても落ち着いて、答えられることを一つずつ答えていけばよいと思います。

とにかく就職活動では、会社や自分のことを理解していくことを心掛けていました。

◆後輩たちへのメッセージをお願いします。

私は就職活動の大半を自分でやりましたが、大学でのガイダンスやセミナーなどを活用することをお勧めします。特にやりたい事の無いって人や、就活ってどうすればいい？って人は、まず就職課に！

行動するのが遅れて就活が不完全燃焼にならないように、3年生後期、遅くても4年生になってすぐには就活を始めることをお勧めします。職業探しとは自分のことをもっと知る機会でもあります。新しい自分の一面に出会って、自分にあった仕事を見つけられるよう頑張ってください。

住吉　文（すみよし　あや）さん
健康栄養学科２年
松山中央高等学校卒業

◆内定をいただいた会社を教えてください。

「株式会社ハタダ」です。

◆その会社に決めた理由を教えてください。

私はアルバイトの販売で学んだ、お客様ひとりひとりを大切にし、商品だけでなく＋αとしてお客様に喜ばれるサービスの提供をしていきたいために、販売の仕事をしたいという希望がありました。その中でもハタダさんは地域に密着しており、お客様を第一として、会社と従業員の三者総繁栄という考え方で、私が私らしく働ける場所であると感じました。

◆就職活動中の苦労や工夫したことを教えてください。

私が就職活動を始めたきっかけは、県外の友人に合同説明会に誘われたことです。就職活動など何も考えていなかった私ですが、参加することで「今、就職活動をしなければならない」という気持ちになりました。

苦労したことは、何もかも一から始めなければならなかったことです。まずは就職活動についての情報集めをし、どのような企業があるのか、アルバイト先の先輩に話を聞いたり、リクナビ、毎日就職ナビなどを利用し、幅広くエントリーしました。工夫したことは説明会などで友人を作り、広く情報交換をしたことです。また話をする中で不安が解消されたりもしました。それから就活ノートを作成し、幅広く活用しました。1冊作っておくと大変便利です。

◆後輩たちへのメッセージをお願いします。

就職活動なんてまだ先のことなんて思わないでください。周りの人が就職活動していないから自分もまだしなくていいやと思っていると、絶好の機会を逃してしまいます。そして何から始めたらよいかわからない人は、まず合同説明会に参加することをオススメします。参加することで得るものが必ずあるはずです。また、幅広く一つでも多くの企業を知り、自分に合う企業を見つけてください。頑張り次第でよい結果が必ず生まれるはずです。頑張ってください。

●これから、医療・福祉施設や幼稚園、保育所などの採用活動が本格化します。就職活動中の皆さん、希望の仕事に就けるよう最後までねばり強く頑張ってください。

クラブ紹介
バドミントン部

私たちバドミントン部はキャプテン中森を筆頭に、男子9人女子5人の14名で活動しています。シャトルが軽くて風に影響されるため、クーラーをつけず、窓を閉めて汗だくになりながら、毎週月、火、金の週3回、記念体育館にて自分たちなりに技術を磨いています。

バドミントンとは、コートをはさみ、水鳥の羽でできたシャトルを落とさないように打ち合うスポーツです。試合には男女のシングルス、男女のダブルス、混合ダブルスがあります。

バドミントンの始まりは古くから世界中で楽しまれていた羽根つき遊びで、1860年ごろになってある玩具業者がラケットとシャトル、ネットを加えてセットにして、バドミントンハウスの名を借りて、「バドミントン・バドルドアー」と名づけて売り出したことから始まりました。この遊びの名前が省略されて「バドミントン」と呼ばれるようになりました。

日本バドミントン協会が設置され、全国に普及しだしたのは1946年（昭和21年）のことで、現在では全ての都道府県に協会が置かれ、登録会員数も20万人を超えていますが、あまりメジャーではないスポーツです。しかし、様々なスピードで飛んでくるシャトルは、スピード感に満ちています。そしてそのシャトルのスピードは、初速が最大で時速300キロを超えるともいわれています。たくさんあるスポーツの中でも、時速300キロを越えるのはＦ１とバドミントンくらいだといわれています。

わが校の最近の大会での成績は昨年12月開催の北条オープン男子4部にて、福祉経営学科3年の東くん（東温高校出身）が堂々優勝。また、今年7月のはじめに行われた、第58回四国地区大学総合体育大会（四国インカレ）にて、保育学科1年松本さん（松山商業高校出身）が、個人でベスト16という輝かしい成績を修めています。

四国インカレでの活躍！！

今後は、地域の大会に積極的に参加し実践での経験を積んで、スキルアップを図りたいと思います。

最後になりましたが、顧問の西山洋美先生をはじめ、いつも暖かく支えてくださる学生支援課の方々、先輩方に心から感謝申し上げたいと思います。今後ともバドミントン部をよろしくお願いいたします。

（福祉経営学科3年　中森 真之さん［キャプテン］
保育学科2年　松田 美沙さん［マネージャー］）

夏炉冬扇
Karo-Tousen

自分へのご褒美の旅

2年前の夏にカンボジアに旅しました。アンコール遺跡を心ゆくまで見てみたいとの想いで、シェムリアップ連泊4泊6日のツアーでした。パックツアーですが添乗員無しのため、飛行機の乗り換えや入国書類など不安もありましたが、「何とかなるさ」と出発。旅のお相手は、従兄弟の奥さん(私よりちょっと年上の、見かけはしっかり…実はうっかりのんびりやさん)

ホテルは、ヴィクトリア・アンコール。アーテイスティックな造りで、とてもリラックスできる空間でした。そこで初めてスパを体験し、あまりの気持ちよさに次の日も予約してしまいました。

想いどおり4日間、遺跡を巡り廻り「誰が?」「どうして?」「どうやって?」「？？？」感動と圧倒と不思議さとの繰り返しでした。

特に感動したのは、アンコールワットの朝日、ジヤングルの中に埋もれ一体化しているタ・プロームの遺跡でした。また、発展途上国といわれる国の子ども達の、人なつこさと逞しさにも驚かされました。内戦の落とし物ともいえる悲惨な光景も垣間見ました。

一番の楽しみ？の食べ物は中華っぽくアレンジされたものが多く、残念!! でも、南国フルーツはGood!! あっというまに帰る日となり、おみやげ、おみやげ、と現実に引き戻され、「いつかまた来よう」と名残りを惜しみつつの荷造りでした。

次はいつご褒美がもらえるかな･･･

（教務課　公原 裕美子）

図書館から新着DVD紹介

左:父親たちの星条旗(132分)
右:硫黄島からの手紙(140分)
クリント・イーストウッド監督
2006年 アメリカ映画

毎年のことですが、8月が来ると「平和」ということについて考える様々な行事が開催されます。今年は戦後62年、ということでいくつもの行事がありました。しかし平和というものは、8月になったから、というものではないと思います。今回は、そうした平和を考えるための作品を二つ紹介したいと思います。この二つの作品は、太平洋戦争の中での「硫黄島の戦い」を、一つはアメリカ側から、もう一つは日本側からそれぞれ描いた、クリント・イーストウッド監督の作品です。

最初はアメリカ側から描かれた「父親たちの星条旗」です。この作品を見て強く感じることは、あの物量に物を言わせたアメリカにおいても、戦争末期になると様々なところで相当なひずみや疲弊があった、ということです。もう一つは同じ戦闘を日本側から描いた「硫黄島からの手紙」です。この映画については栗林中将の本も図書館に入っています。合わせて読んでいただくことをお勧めします。

ある日突然にそれまでの生活を奪われて戦地に赴かなければならなくなった人々。もちろん死と隣り合わせです。戦争の悲惨さは、敵味方関係ありません。戦後62年とはいいますが、いまだに戦争はこの地球上から無くなろうとはしていません。もう一度平和の尊さ、その意味について考えるきっかけとして、この映画をお薦めしたいと思います。

（図書課　玉岡 兼治）

カタリナひろば
編集・発行
聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
広 報 委 員 会
〒799-2496 松山市北条660
TEL(089)993-0702(代)
kouhou@catherine.ac.jp